

臨地実習（精神看護学）

[実習] 通年 選択 180時間 4単位

《担当者名》○八木こずえ [co-yagi0913@hoku-iryo-u.ac.jp]
宮地善子 [miyajih@hoku-iryo-u.ac.jp]
中安隆志 [nakayasu@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

臨地実習は統合実習として位置づけられる。臨地実習とを踏まえた直接的ケアを主軸に、コンサルテーション・コーディネーションを含めた実習を行う。前半は直接ケア実習として、複雑で多様な問題を持った急性期の事例や退院支援が進行中の事例、地域にて再入院を繰り返している事例などを受け持ち、当事者や家族、ケア提供者を含めた包括的なアセスメントを実施し、セルフケアやQOLの向上に向けたケアを実施する。

直接的ケアによって得られた包括的なアセスメントや回復に役立つケア方法は、回復過程を促進するリソースとして活用し、コンサルテーション・コーディネーションの実践につなげやすい。そのため直接ケア実習の後半部分からは、コンサルテーション・コーディネーションを含めた実習を行い、ケア提供者への支援や連携、調整を含めた実践を経験し、自己課題を明確にする。

【学修目標】

- 1) 複雑で多様な問題を持つ事例の治療経過や看護経過、社会的背景から総合的なアセスメントを行い、ケア方法のポイントや方針、根拠を明確化できる。
- 2) 複雑でケア困難な事例を受け持ち、病棟ナースとコミュニケーションを取りながら、直接的ケアを実践できる。
- 3) 援助やアセスメントに用いた看護理論や技法、自らの思考過程を資料に起こし、カンファレンスやナースとの関わりにおいて、コンサルテーションやコーディネーションを実践し、適切なケアの促進や改善になるよう工夫する。他職種との連携や調整も意図して関わり、実践を評価し、自己課題を明確化できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	【実習課題】 1, 6つの役割機能も意識した直接的ケア実習	1) 指導にあたる専門看護師や病棟管理者との相談により、病棟の教育ニーズの高い疾患や病態の、複雑な多様な問題を持つ事例を選定して受け持つ。	八木 宮地 中安
	2, サブスペシャリティ領域（慢性期看護）において総合的・専門的なアセスメントと実践を行う。	2) 担当教員や専門看護師のスーパービジョンを受けながら、受け持ち患者の精神状態やセルフケア機能、自我機能、心理社会的背景などから、臨床状況を総合的にアセスメントし、回復を目指した看護計画を作成し、適切な介入技法を実践する。	
	3, 直接ケアの実践から導かれた適切なケア方法に基づいて、コンサルテーション・コーディネーションを行う。	3) 医師・担当看護師や看護チーム・精神保健福祉士・臨床心理士・作業療法士等と連携しながら、看護の介入内容を検討し、治療目標やケア内容、今後の継続ケアについても協議する。事例に必要な実践内容が組織に浸透していくようコンサルテーション・コーディネーションを行う。	
	【実習方法】	ケアの困難性を抱える入院治療中のケースへの受け持ちを基本とし、直接ケアを行いながら、スタッフナースの相談や連携も意識した実習を行う。	
	【実習場所】	学生の臨床経験や課題を考慮し3施設の中で最も適切な施設を相談し決定する。	
	【実習期間】	基本は4週間であるが課題達成状況により延長する	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習記録の評価（30％）実践内容の評価（30％）レポート評価（40％）

【教科書】

宇佐美しおり・野末聖香編集:精神看護スペシャリストに必要な理論と技法.日本看護協会出版会.2009.

【備考】

実習要項を参照する。

【学修の準備】

臨地実習、の復習や明確化した自己課題に対して自主的に準備を進める。文献から高度実践看護師の介入事例の勉強を深める。